

集覽

明治廿九年

海軍機關少尉候補生第一期実務練習報告

海軍省

海軍省

海軍省

海軍省

海軍省



0253

軍艦明石

軍艦須磨

明治廿九年

海軍機関少尉候補生第一期実勢練習、園正報告

軍艦 明石

海軍

0254

海軍機関少尉候補生第一期実務練習報告

目録

一 練習為ニ定ム諸規定及諸配置

甲 機関少尉候補生練習内規 附第一號 巻尾

乙 候補生第一期実務練習教科目 附第二號 巻尾

丙 練習候補生基本配置及當直配置 附第三號 巻尾

二 指導者ノ分擔

三 教科細目実施状況

四 教科細目中中止ム得ス実施ニ得サレシ項目及其事由

五 教科目外ニ實施シタル教練講和見學

六 教科修了後ニ行ヒタル試験ニ関スル事項

甲 練習機関少尉候補生終末試験次第書目

乙 各試験問題

七、練習航海記事

八、練習に關する誌概要

九、徴兵討疾瘵等練習候補生又事衛生に關する事項

衛生状況

十、練習に實驗に關する所見

目錄の中六及十八明石須磨ニテ快同提出ニ付除ク

0256

一 練習ノ爲メ定メテ諸規定及諸配置 軍艦明石

一 本練習ハ明石及須磨名ノ兩艦ニテ之ヲ以テ公平整一シ本旨トシ諸規定及諸配置ニ特別ヲ要スルモノ外ハ必ス兩艦均等ニ從ヒテ教授ニ當リ之モ各科目ニ就テ者其基礎ヲ英書ルニシテハフランクタルニ採リ

二 明治廿九年三月二十六日候補生十六名乗艦ニ付キ別冊ノ通り練習内規及配置ヲ實行セリ

甲 機関少尉候補生練習内規 附 第一号

乙 候補生第一期實務練習教科目 附 第二号

丙 練習候補生基本配置及進路配置 附 第三号

録 目

二、指導官ノ分擔

軍艦明石

秋元指導官

主機・機先・補助機・機・承之
一切操縦法・整理法・実験法
部署及配置表・勤務

田中指導官

艦部・承之
一切操縦法・整理法・実験法
部署及配置表・勤務

三、教科細目實施ノ状況

軍艦明石

候補生總數六名ヲ教科状況ニ應ジテ各員ノ負或ハ界ノ負若クハ總負
 シテ各員ノ作業ニ從事セシム各候補生ノシテ平均ニ習得セタリ

操縦法

教科細目

(一) 汽釀及焚火法

實施ノ状況

負火、埋火、續火、換火、消火ノ方法

航海及碇泊中時機ニ通

汽釀ノ發急其他各種ノ場合ニ應ジテ焚

ヒル細目ニ付キ指導官

火法充水、排水、駆塩、駆渣ノ方法、汽釀

度地教授シタル後候補

中ノ監理及汽釀前後ノ處置、給水法

生シテラ自ラ之ニ當リシメ実

罐水循環法、罐水給水等ノ密度及性質

地練磨修得タルム

換走

(二) 運轉法

毎

日

<p>機械ノ運轉準備並停法、運轉中監視及運轉前後ノ處置、潤滑法、灌水</p>	<p>右ノ令シ</p>
<p>法指圧器器使用</p>	
<p>(三) 應急作業</p>	
<p>運動部、擦熱、真空計ノ過降、蒸</p>	<p>甯時ノ甯直受ヲ指</p>
<p>汽管及水管ノ取換、罐水ノ溢、罐</p>	<p>通守官監視ノ下ニ実施</p>
<p>水ノ過降、火床、機、燒落、運轉急止</p>	<p>ニ該事項ニ遭遇セザル</p>
	<p>直受ノ取換ノ許ヲ限リ、實</p>
	<p>地見學或ハ假設ニ付、訓</p>
	<p>練セシム</p>
<p>至急莫火</p>	<p>總受作業トシ、實地指</p>
	<p>導官監視ノ下ニ實地習</p>
	<p>得セシム</p>

急速浸水等ノ際ニ行ハルキ處置ニ作業

實際船底ノ海水面ノ船

底ノ漲リ終息ノ作業トシ

テ毎々實地習得セシム

罐管ノ漏洩度熱度ノ膨出

實際ニ起ラカドモ以テ現場

ニ就キ假設シ終息ノ指

示可官監視ノ下ニ實際的

作業ノ手續ヲ施行セシム

ホ舞鶴ニ廠ニ於テ阿ヤ熱水

管式汽釜ノ給水管ヨリ

修正作業ヲ見習ヒセシム

(四) 諸小機及諸装置ノ操法

發電機ノ操法及配電法、舵取機械ノ操

法及動力ノ變更更

初メ指導官監視ノ下ニ

地習得セシム其後ハ常用

	勤務中実地練習多 タリ
操作法	水雷弁射ノ都度定規習 得セリ
空氣圧操機械ノ操作法及配氣法	得セリ
(五)調整、解装及検査法	得セリ
蒸気筒等ノ解装、筒内及吸錫各部ノ検査併ニ附属諸弁條衛帶等ノ調整、復水器等ノ解装、器ノ内外各部ノ検査	機械補修ノ実ニ事 項ニ重テ古保碇泊中 ニ備ヘテ置ルニ事
及水管ノ現状検査並ニ配氣筒等ノ解装	艦碇泊中ニ指シ導官 監督ノ下ニ復補生々
・筒内各部ノ検査並ニ弁ノ調整、軸承主軸承推力軸承諸箇節ノ導	シテ実地施行ノ上習 得セリ
子、ノニガギヤ及弁心器ノ検査調整及	得セリ

0262

蒸気用ノ遊隙調整

罐内外及附属品ノ現状検査、漏孔ノ閉殺

取付、安全弁用弁條ノ検査調整、諸部

筒諸補助機械給水吸蒸化器蒸餾

器弁電機及電路空氣圧接機械ニ系

蓄器吐氣系柱諸潤滑装置及油路

等、現状検査諸管ノ接合解体諸

弁嘴摺合、衛帯ノ改装及制弁作確

力計、真空計其他諸計器ノ誤差検測

防水装置消火装置、石炭庫及三重底ノ

現状検査

機械ノ中心検査

中心検査ニ付キ
實地施行スルニ作業大

毎
日

			入渠中系ニ其前後ニ行ツキ準備及検査 推進器ノターニングモメント検測						(六) 保存法	碇泊中ニ於ケル機械等ノ一般保護法	
仕概トスルヲ以テ現状整備ニ 臨ミ講義シ小機ニ付キ実 際施行セシム			須磨若佐古保ニ入渠スル キ予定ナリ此時機ヲ失 シ次ラ番修繕ニ入渠セシ トシ履々支拂シテ更テシ マス迄ニ入ルコト能ハズサリシ 以テ指導官ハ廣ク止ム							初メ指導官説明ス莫 ク亦東候補生ニシテ 施感下下キ候施ス	

0264

	模倣シ見學習修セル 然
復水器ノ洗滌法、罐内部刮削并洗滌、満水系ニ乾燥保護法保護匣鋁板ノ配装、各部ノ防銹法其他現状検査ノ成績ニ應ジ施スヤキ保存法、豫備品ノ保存法	指導官監視下ニ度 地習得セシム
(七) 修理法 復水器管及換氣弁、仮修理法及管ノ替 罐管ノ缺損セル片假修理法、電路修理	右ニ同シ
(八) 應急準備 令戰準備ニ関スル作業、荒天準備ニ関	前者ハ操練ノ際屢々

0265

<p>之れ作業</p>	<p>(九) 需品ノ所理</p>	<p>石炭ノ搭載法及之共前後ノ準備并之處置</p>	<p>炭庫内ノ炭置目測</p>	<p>需品ノ保存并之整理</p>					<p>需品ノ品質性状檢定</p>		<p>實驗法</p>	<p>(十) 機関及諸仕衣置ノ効力ニ関スル實驗</p>
		<p>指導官監視下ニ實</p>	<p>習セシム</p>	<p>航海及碇泊中共倉庫</p>	<p>之ノ需用直量ヲ設ケ航</p>	<p>海中ト碇泊中トノ間ハス</p>	<p>事業ノ傍ラ實地練習</p>	<p>セシム</p>	<p>実物ニ付キ説明ヲ供ヘ且</p>	<p>推搦実檢セタリ</p>		

0266

高力運轉ノ實施、使用蒸氣ノ壓力高低 リングノ更整、蒸汽内ノ蒸汽圧力等對 スル操作上ノ關係試定、火床面積ノ増減ト燃 料ノ経済トノ關係試定、罐數ノ増減ト燃料 ノ経済トノ關係試定、各速力ニ對スル炭消 費額及馬力ノ試定、蒸氣速力ノ推定、 蒸化器蒸滯器ノ効力試定、空氣壓搾 機械ノ効力試定、發電機ノ調速作動 換定、罐ノ水壓試驗、復水器ノ漏洩檢 定	指導官監視ノ下ニ候 補生シテ實驗ニ要スル 諸準備品ニ手續ヲ實 習セシメ之ヲ實驗成績 就中先今研究解得 セシメタリ
(士) 船船ニ於ル現實施ノ部署及配置機関 部ニ關スル部署及配置並ニ之ニ關スル教練	候補生各自ノ軍艦明 石機関部部署一冊
部署及配置	候補生各自ノ軍艦明 石機関部部署一冊

録

目

四、教科細目中未だ得ず實施し得ザル項目及共事由

軍艦明石

項目

事由

(一) 操縦法

風圧通風焚火法

實施し能分付に演

石炭ノ自燃等ヲ起レシ場合

實際ニ遭遇セザルヲ故ニ講

義セリ

(二) 整理法

入渠中并ニ其前後ニ行フキ準備檢

査ニ令シ

査推進器ノタービシグモート檢測

蒸汽管ノ個不詰ヲ傷トシルキ運轉

時ノ許サルガ為メ該事項

ヲ継続スルニ要スル假修理法

ノ發生ヲ假想シ候補生ヲ

シテ之ニ應ズル意見見シ戰

五教科目外ニ実施シテ教練ノ講話見學其他ノ事項

甲実施シテ教練

・汽缶交通併用操法

・火港ニ除シ機関ノ操法

・視滴注油器及自動水穿使用法

・驗水硝子計換裝作業

・主送水機滲水唧筒機械馳水力量計測

・百熱電燈ヲ艦飾シテ法

・漏電断電ニ対スル應急作業

・一運転中一個主送水機破損セシ時兩舷機械運轉続操法并ニ

・並大回轉教ノ檢定

・右舷機故障ノ左舷機ヲ運轉続シテ除ニ於テノ操作上ノ

六係檢定

一ウオシニニグトン給水唧筒機械滑弁位置調整

一レリーフリック解装調整

一高力運転後機関ニ対スル作業罐蒸汽部及水部容量

積并ニ水高計一吋毎罐水容量積実測

一罐ノ重要部寸法計測

一水雷ノ分解給合調整発射

一諸管装置見取

一豫備中交換作業トシテ尤舷機低下後訂備心器帯環并

六備心器棒換装

一拒進器ノスリップ計定

一蒸気消費量計測法

一蒸餾水一噸対スル石炭費ノ額計測

一 汽罐蒸弁才程及効率ノ檢定法

一 蒸弁水量ノ実測

一 換機ノ効率ノ計測

一 弁電機表性ノ函画キ方

一 補機用石炭消費額試驗

一 船体トリム匡正

一 罐水及蒸餾水塩分檢測法

一 搬炭法

〇 元講話

一 初等軍艦乗組員ノ練習候補生ニ告グ

一 生駒進水式ニ就テ

一 水雷艇航調整器ニ就テ

一 二次電池課電法

松澤機関長

秋元指導官

秋元指導官

秋元指導官

一、探海燈特設抵抗及臭滅報知器ニ就キ	秋元指道守官
一、安全溶解線、直至見出法	秋元指道守官
一、軍艦三隻引揚之事ニ就キ	田中指道守官
一、汽罐ニ及ス給水温度及蒸汽牙均及給水浪失ニ就キ	田中指道守官
一、煙突上ノ煙溜ニ就キ	田中指道守官
一、炭庫通風装置並ニ自燃ノ場所ニ就キ	田中指道守官
一、各種石炭ノ容積并ニ石炭載格法ノ關係	秋元指道守官
一、各種石炭分析表ニ就キ	秋元指道守官
一、二個以テテ電機機各一電路ニ連絡スル方法ニ就キ	秋元指道守官
一、機械運動部ニ列木罐ノ生シル場合ニ就キ	秋元指道守官
一、復水器管板腐蝕為メニ修理法	秋元指道守官
一、水雷故障及其原因ニ就キ	秋元指道守官
一、水雷故障及其原因ニ就キ付横舵制止ノ回轉數ニ就キ	秋元指道守官
一、水雷故障及其原因ニ就キ付横舵制止ノ回轉數ニ就キ	秋元指道守官
一、水雷故障及其原因ニ就キ付横舵制止ノ回轉數ニ就キ	秋元指道守官

一、船渠ノ寸法ニ就キ(附帝國各地船渠ノ重要寸法)	田中指導官
一、軟鋼、硬鋼及鉄織塗ニ就キ	秋元指導官
一、塗具及其調合ニ付キ	秋元指導官
一、勤務録ニ於テ精心的表情	松澤機関長
一、海商航路、潮流、風、浪、及航海中時計改正ニ就キ	村渡航海長
一、水雷艇射ニ就キ	寺島水雷長
一、吳ヨリ東京ニ至ル航路ニ就キ	菅野中尉
一、艦砲射撃手及小銃射撃手ニ就キ	志賀砲術長
丙、見學	
一、海軍大學校	横濱在泊中
一、通信者電氣系試験所	令
一、横濱ドックヤード	令
一、伊艦「カラブリヤ」	令

一、独艦「ファストビスマルク」	横濱在泊中
一、海軍省(大臣ノ訓諭アリ)	令
一、東京砲兵工廠	令
一、東京砲兵工廠(東京)	令
一、日本パイロライト制衣造株式会社	令
一、日本アスベスチス製衣造所	令
一、明治護又護製衣所	令
一、別子銅山新田鑛区、鉛石運搬法	新居浜在泊中
一、軍艦生駒進水式	呉在泊中
一、軍艦石見筑波	令
一、石島水力電気株式会社六村電所	令
一、呉工廠一般	令
一、第廿六号水雷艇検査操縦法	令

0276

一 兵學校	江由島在泊中
一 海軍煉炭製造所	徳山在泊中
一 枝光製鉄所	博田在泊中
一 三池炭坑并三池水港工事	全
一 佐世保工廠需用品庫	佐世保在泊中
一 長崎水道西山低部貯水池	全
一 長崎三菱造船所	全
一 軍艦三笠引揚工事	全
一 台北神社 永久兵營	基隆在泊中
一 台湾專使局	全
一 國語學校	全
一 總督府官邸	全
一 台湾敬言寮本署(標本陳列所)	全

一 製菓所 (阿片)	基隆在泊守
一 苗圃	令
一 監獄	令
一 馬公要港部修理工場 及蒸餾水製造所	馬公在泊守
一 江南棧器局	上海在泊守
一 無烟大葉製造所	令
一 上海上洋自來水公司	令
一 膠州灣內港及浮船渠	青島在泊守
一 威海衛	威海衛在泊守
一 芝罘	芝罘在泊守
一 旅順背面防禦砲台	旅順在泊守
一 大連防備隊附屬各工場	大連在泊守
一 京城旧王城	仁川在泊守

0278

一竹敷要港部修理之場カ浮船渠及水雷布設隊 竹敷在泊中

堀割 (瓜生司令長官閣下訓諭アリ)

一舞鶴工廠 舞鶴在泊中

一軍艦阿蘇 全

一佐渡金山 佐渡板川在泊中

一新潟新津油田 新津在泊中

一多張炭砒 小樽在泊中

一札幌農學工廠 全

一大湊要港部修理之場 大湊在泊中

承

1007

七、練習航海記事

軍艦明石

明治三十九年三月十四日木艦、須磨、共練習艦上定、之今月廿二日吳
 癸亥廿四日横須賀着翌日海軍機関少尉候補生十六名乗艦全充
 日横濱、回航、須磨、会合、兩艦、四月五日横濱、抜錨、東京灣
 起点、練習航海、途、就、瀬戸内海、九州、台湾、清、韓、各港
 本邦北西岸諸港、巡航、之、函館、及、本州東岸、等、八月三日、東京
 灣、停着、也

横濱、抜錨、横須賀、停着、途、經、區、日、教、航程、航走時間、石、如、

經區日教 百貳十日

航走距離 五千九百六十四哩六

航走時教 六百四十九時間九 (廿七日、一時間九)

以下之、詳述、也

航路豫定

地名	航程	着月	日	奔月	日	碇泊	教	記	事
東京湾	五二〇	四月	八	四月	五			東京見岸 (水、補給)	
吳	九五	四月	八	四月	三	四		進水式之儀 石島水方奔定所 不見 航波 江田島見岸	
徳山	一一二	四月	一五	四月	一六	〇		出港後 甲島附近、於大砲水雷奔射 練炭製氷所見岸 少部等 仮泊	
博多	一〇一	四月	一七	四月	二一	三		枝光製鉄所 及 三池炭砒見岸	
佐世保	六四七	五月	二一	五月	九	七		檢閲分解給合 及 補生 長崎見岸 三浦才運転 五時間	
基隆	四九一	五月	一七	五月	二二	四		子一ルヤード 右東見岸	
香港	八二四	五月	二五	五月	二九	三		此間五時間停上 應急修理 予 備中 交換 江南 操器局 水道見岸	
上海	四二〇	五月	三一	五月	六一	〇		子一ルヤード 見岸	
膠州湾	一八六	六月	二	六月	三	〇		全上	
威海衛	九五	六月	四	六月	八	三		築港奔定所 防備隊 及 操噴港 方面見岸	
大連									

仁川	鎮海灣 (馬山浦)	竹敷	舞鶴	佐渡	新瀉	大湊	小樽	函館	釜石	横須賀	合計
貳人	四〇六	六五	三五八	三五五	三〇	二五五	二一〇	一八七	三四〇	八四	六一〇六
六	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
九	一四	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一八	一八	
六	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
二	一七	九	三	〇	〇	〇	〇	〇	三	三	
貳	貳	九	三	〇	〇	〇	〇	〇	三	三	
東城見學	諸操練並水雷艦砲發射	此間約午時開始演習品突換 概圖解放各(鏡+)高力運轉準備 全時三時五八時間高力運轉 全鏡見學			石油礦見學	炭礦見學 札幌農學校見學	煉習生終末試驗	鐵礦見學			

0283

白横濱至吳

航程 五五四哩三
航程時間 五十四時七

此航路大體以海峽ヲ瀬戸ノ入ニ普通航路ヲ採リシカ神子元島ト九州大島トノ線トシテ昔季節ニ殆ト海流ヲキ見込テ以テ直線航路ヲ進シ又瀬戸内潮汐ヲ利用シ且ツ自差修正等ヲナシテ為メ新居濱泊地ニ及泊シ來島海峽ヲ通過セリ

四月五日(木曜) 气温 最高 六十度 最低 四十二度 天候快晴 風向西カニ乃至五

午後三時五分播磨坂船頭席ト編隊出港 練習航海ノ途上此時風向南方一ナリシガ東京海灣ニ出ルヤ風向西ニ變シ力或乃至參少ニク風下ニ壓流セラルト見シカ沖ニ出ルニ從ヒ風力漸次加ルリ約四トナリ長清ノ為メ縱動シ少シク航程ヲ減ワレ 釧崎燈台ノ南西方約十哩ノ点ヲ大島乳ヶ崎ニ至ル間毎時約三哩ノ速度ヲ有テ東流ニ會テ西風強キ時ハ航海者大注意ヲ要ス所ナシ 出港後原速力十哩ヲ航行セシカ以上ノ如ク風潮ノ為メ毎時ノ航程若シテ減少セシテ以テ漸次速力ヲ増シ午後九時原速力十哩ヲ航行ス

乳ヶ崎、神子之島間、風向全に西、力四乃至五、航程毎時九裡、出テ不

四月六日(金曜日) 气温 最高 六十四度 最低 五十六度 天候快晴 風向 西北西、力三乃至四 後西南西、力三乃至四

午前六時、武分神子之島ヲ北西ニ進見テ、紀州大島ニ定針、午前三時頃、

風向西北西、度ニ午前三時、五時、頃、風力六、漸次衰テ、午前

十時頃、風向南、轉ジ、午後二時頃、數時間西南西、力三乃至四、風アリ、此直

線上ニ於テ、毎時平均ニ、理航程ヲ減セシタリ、風ノ為ニ生カシ皮流、然レモ此所

トランカ

午後五時、潮岬ヲ正北ニ見テ、通過、紀州西岸入り、風力衰、瀬戸内ニ、風向

不定、力一乃至、武ノ出テ、午後六時、原速力十裡ニ復ス

四月七日(土曜日) 气温 最高 六十二度 最低 五十二度 天候晴 風向不定、力一乃至、武

助右瀬戸入、瀬戸附近、薄霧、午前六時、早五分、岩屋燈台ヲ、右舷正

横ニ見テ、航行、午前七時、大角鼻南方ニ達シ、約一裡、順潮ニ備、瀬

戸通過、午後、時十分、新居瀬、仮泊ス

四月八日(日曜日) 气温最高五十七度 最低五十三度 天候曇 午前七時頃より終日降雨アリ

風向、東より北々東、力一乃至貳

午前六時本艦單獨出港備後灘より自表修正、終り須磨赤倉原速力

十二哩航行、午前十一時(怒潮時)末島海峡ヲ通過シ午後四時貳

分吳入港投錨 船手御座衆 皇太子殿下對シ皇禮砲ヲ発シ諸

艦準ヨリ滿艦飾、電燈艦飾施行、

自四月九日 至四月十四日 吳碇泊 气温最高七十二度 最低四十二度 天候概シ良好

左港中 筑波進水式 炭火彈丸塔載、貯糧品其他各科ノ需品塔載

水兵部小銃射撃、マイニングボード陸揚

吉松吳鎮守府糸謀長左司令長官代理トシテ奉艦ニ内ヲ出視ス

須磨十三日出港

自吳至徳山(途中艦砲射撃、水雷艇射撃施行) 全航程 清貳七哩、四

四月十五日(日曜日) 气温最高六十二度 最低五十四度 天候午前晴、午後曇、風 午後四時カ至二

午前六時出港廣島灣回航前川尻水雷艇射擊施行中水雷沈没
後午前七時五分附近依泊之搜索徒中水雷見着りし合引揚分得入

四月十日(月曜日) 气温 最高 六十五度 最低 五十七度 天候曇午前微雨濃霧、風 午前ナシ 午後風西力一

沈没水雷引揚収容甲島附近ニ艦砲射擊施行午後時五分江内ニ依泊須磨右泊

四月十七日(火曜) 气温 最高 五十五度 最低 四十八度 天候午前曇、午後半晴、風 午前不定 午後西北風、西力一乃至四

午前七時十分抜錨須磨上編隊出港、午後一時諸島水道通過ニ家屋水道ヲ

経テ午後六時三十分徳山抜錨

自徳山至博多 (水艦、投錨前回轉固若隋力測定施行) 全航程 一三一哩、一四 左舷時間 一七時間二

四月十八日(水曜日) 气温 最高 七十度 最低 四十七度 天候快晴、風向西、力一乃至二

午後三時十分抜錨兩艦編隊出港、尾速力十里、七時十分部州南東方依泊入

四月十九日(木曜日) 气温 最高 六十八度 最低 五十五度 天候午前晴、午後快晴、風向北西、南面 力一乃至二

午前七時十分抜錨順潮、未期ニ於テ下関海峡ヲ通過ニ午後七時十五分福岡湾

口ニ到リ列ヲ解キ須磨入港、水艦、湾内ニ回轉固若隋力測定ノ一部ヲ施行シ

午後八時十分投錨

福國灣内ニ面轉圈測定

航程八十分
航程時間九時間九

四月廿日(金曜) 气温最高六十七度 最低五十七度 天候晴 風午后北風稍強シカニ乃至三

午前七時三分本艦ニ投錨灣内ニ面轉圈測定施行午後七時十分投錨

自博多至佐世保

航程 一百一十二
航程時間 一〇時間

四月廿一日(日曜) 气温最高六十九度 最低五十七度 天候曇時々海雨、風南、力午前二乃至三、午後三乃至五

午前八時投錨兩艦編隊出港島嶼方島北方面普通航程ヲ佐世保ニ

向テ原速力十理ヲ航行セシ風波稍強クナリシ為少ク航程減少シ

以テ午後一時原速力十理ト志自岐崎より東方ニ風力最モ強ク風壓

約三點上テ午後六時八分佐世保入港本艦七番浮標ニ繫留ス

自四月廿三日 至五月九日 佐世保碇泊 气温最高七十九度 最低五十五度 天候概シク平穩内雨天日

在泊中 機関分解結合、高力運轉準備、鍊習号、操鍊、諸点検

小銃射擊ヲ施行シ 炭水ヲ補充ス

自作書保至基隆

航程 六、六九 哩七
航者時間 七、時間 三

此航路之託キ記 在之ヲ見 ヲリシモ 普通大船ハ 男女群島若船見ヲ 彭佳山

ヲ 左舷ニ見ヨリ 直線航路ヲ トルモノ 如シ 而シテ 此兩地間 直線航路ヲ トラン

ニ 多少黒潮流域ヲ 逆行ヒタルモノ 尤カ 如シ 此航路ノ 経験多キ 船長ノ 談ニ 由ル

ニ 直航ニ 於テ 全航程ヲ 均等ニ 逆潮ニ 遭フ 事常ト スト云フ

黒潮流域 限界ハ 不明ナリト 云々 今固ニ 稍迂回航路ヲ 取黒潮ノ 可成避ケ

航行ハ 予豫 恐テ 小立島ヲ 北西ニ 西一五 哩ニ見テ 南五 於度 西ニ 定針シ

男女群島ヲ 左舷ニ 見テ 航過シ 東經百廿三度ノ 線(北緯廿七度 冥分ノ

地点)ニ 達シ 之ヲ 基隆港 直航ノ 航路ヲ トルトヤリ 之航路ハ 直航ニ 比シテ 航

程 十二 哩 許多シ

五月十日(木曜日) 气温 最高 六十九度 最低 六十二度 天候 曇、 風向 北西、 力一

午前十時 五分 解纜 兩艦 編隊 出港 原速 力十 哩トス 午前十一時 五分 解

列各 艦石炭 消費 試驗 施行、 本艦ニ 施行ヒシモノ 如シ

回轉六十五、對心試驗(約八四哩) 午前七時半より四時間

全七十 (約九哩) 引續十三時間半

全七十五 (約九六哩) 午後七時半より四時間

午後零時七分小立島側豫定位置より南五十度西に定針

五月十日(金曜日) 气温最高七十度 最低六十二度 天候午前曇、日出頭より晴午後快晴

風向 午前北力一、午後右轉に夕刻より南東力一

午前一時五分高力運轉開始 午後一時終り

前日午後九時男女群島に艦位を確定せしむる本自正午迄艦は北西に西

流せり約十里より測知より午後零時五分停止漂泊機関應急

修理豫備品交換作業を實施す須磨亦附近、未會全作業を行

午後六時八分作業終了汽機運轉ヲ始メ本艦は自差測定を行ヒ午

後六時十分北緯廿九度四十七分東經百廿五度八分地より南西に定針

原速力十里より航行す午後七時十二分須磨列に入

五月十一日(土曜日) 气温

最高 八十度
最低 六十五度

天候、午前殆ど曇、午後晴

風向、日出頭迄南西力一乃至二、風弱之ヲ漸次右轉、時頃南風力二

午前無霧、艦隊霧中航法ヲ試シ

正午艦ノ推測位置ヲ南五十五度西約十哩ノニテリシヲ知レリ

本日正午時辰ヲ西部標準時ニ改ム

午後所艦隊運動ヲ行ヒ、就時五十分南廿五度西ニ定針、午後九時南廿五度西

定針

五月十日(日曜日) 气温

最高 八十四度
最低 七十七度

天候晴、風向南乃至南々東、力一

午前六時廿五分彭佳山ヲ左舷艦首ニ認ム、速カク減シ、午前七時十八

分基隆港ニ投錨ス

午前三時半艦ノ推測位置ヲ北々東ニ測定ス、彭佳山附近ニ艦ノ

東方ニ流サレテ感知セシカ、基隆島附近ニ層強ク其南西方ニ殆ド怒潮

時ナリシニ拘テ約ニ哩以上ノ東流ニ感テ内地、台湾間航行船長ヲ詰ル

處之北、勢佳山ニ並ブ頃、東方ニ流レ基隆島附近ニ來ル、徒ヒ稍低
シナルヲ常トスルヲ

基隆港ニ就テ

基隆ハ台湾ニ於テ唯一ノ港灣ニシテ内地トノ交通、衝ニ當リ其類繁ク在交
通ハ當港ノ狹隘ニ慮カレシムル者多ク已ニ台湾經濟ノ所ニ着手事業トシテ
築港ニ從事シ、廿八年度ヲ以テ之ヲ終ラセシト、虽モ尚不充分ナルヲ免シ不依テ
之ヲ第一期トシ、更ニ第二期築港ヲ計畫シ、本年度ニ着手シ、七箇年ノ繼續
事業トシテ、明治四十五年ニ完成セシムル豫定ナリトシテ

築港完成後、基隆港ノ概要次ノ如シ（當事者ノ談）

築港ハ仙洞鼻以外ニ及ボサズ

仙洞鼻ハ海壁百八十四間ヲ築設シ、且四ノ百餘坪ノ埋立ヲシテ附近ノ海
底ハ仙洞鼻以内ニ通ル幅八十間ノ水路ヲ設ルノ外、然ラズ現狀ヲ存ス

内港ハ岸壁延長四百貳十五間ヲ築キ、且大基隆沿岸ニ於テ四百十間小基

隆治岸に於て八百七十間半網港に於て百五十間海岸石垣ヲ築設シ
尚治岸ニ十箇所階段(六十尺)ヲ設テ小船ノ行通ニ便シ海底ハ學公
學母或島以内港奥約三百間底間ヤ干潮面下三十尺深ク浚渫
ニ懸公島ハ干潮面以下三十尺迄取除キ且ツ沿岸各所ニ於テ碇泊地ノ
区域内ニ石岩礁ハ完全ニ除去スルル又航路ニ浮標十箇ヲ設置シテ
水路ヲ明示シ港奥ニハ繫船浮標十箇ヲ設テ船舶ヲシテ岩壁ニ横繫
スルノ外安全ニ之ニ繫留スル得ト云岩壁ヲ有ル陸上ハ上家及倉庫
ヲ建築シ且ツ起重機ヲ備フトシテ(内港平面略圖添付)
築港完全後ハ又市區ノ改正ヲ行フ筈ナリトシテ
清水、水道ノ水質良好ナリシテ、水源ハ基隆河ノ上流基隆市街ニ
約一里半許ノ處ニ河水ヲ堰上ノ十寸吋鉄管ヲ河流沿ヒ市街上部ノ
泚激池貯水池ニ導キ市街ニ至リテ二分一ハ小基隆ヲ經テ陸軍補給廠前
ニ至リ(將來社寮島延長セルトスル議アリトシテ)他ノ一ハ大基隆停車場ニ

経ヲ築港局、検査所ニ至ルノ費約四十八万円明治三十二年赴ニ在昔四年
 竣工セシメテ此ノ事ハ將來基隆ノ膨脹ヲ予定シ五万人ニ給水シ得ル程
 度ニ款計セシメテリト 三十八年度給水區域内ノ人数四、三、一一人各
 一七、五〇貳人海上ノ味口ハ棧橋ニ一ヶ所其南方ハ棧橋ニ貳ヶ所
 (何シモニ付)ハ基隆大坂商船會社支店前、一ヶ所(三吋)ヲ毎時吐水
 量前者ハ廿五噸死後者ハ六十噸ナリト云フ
 艦船ハ給水ハ基隆曾仔城外西澤吉次(停車場、近傍支店ナリ)
 ナリト受負ハシメテリト云フ水船三隻(廿七噸、廿五噸、六噸積モノ)ナリ
 又「ボツ」船一隻ヲ所有ナリ(塔載量毎時約廿噸)水代ハ棧橋横附ノ
 モノハ一噸十五銭、内港廿五銭、外港(仙洞鼻以外)三十銭
 魚類ハ鱈、堅魚、多ク安價ナリト云フ其他水路誌記ル所ノ如シ
 自基隆至馬公 航程 二〇三哩 九
 航者時間 二〇時間 六
 馬公ハ寄港セザル予定ナリ是石炭補充ノ都合ナリ寄港セザルニ便更ナリ

五月十五日(大曜日) 气温最高 八十四度 最低 七十四度 天候快晴 風向南西、カ一乃至二

午前七時廿五分抜錨兩艦編隊出港、陸岸に近き諸隠險の約一哩南

に漲潮流ヲ利用シテ航行午後一時十分富貴角燈台ヲ南東 $\frac{3}{4}$ 東ニ

$\frac{3}{4}$ 西に見テ南六十度西に度針午後貳時過迄ハ毎時約一哩順潮ナリシ

午後四時十分白砂岬燈台ヲ東微南西 $\frac{2}{3}$ ニ見テ南四十九度西に度針

午後五時迄ハ何等ノ海流ニ感ホカリシハ此時より陸上物標ヲ見失フ迄ノ

航跡由北海岸線に殆ど平行シテ北東微北に流レ一哩 $\frac{3}{4}$ ノ速力ナリ

北海流 $\frac{2}{3}$ 測知シ得タリ 午後五時頃より風向南西カニトシ

五月十六日(水曜日) 气温最高 八十五度 最低 七十八度 天候晴 但し日出時前後曇風カ $\frac{1}{2}$ 西

午前二時十分目斗嶼燈台ヲ南々西に認メ午前四時十分左燈台北四十一

度西十 $\frac{1}{2}$ に測知シ得タリ前日午後五時より此時迄毎時平均北東

微北一 $\frac{1}{2}$ に $\frac{3}{4}$ 海流 $\frac{2}{3}$ 知リ得タリ之より澎湖島ノ西岸に臨ミ南航シ

午前七時十分西公港に入港抜錨シ炭水ヲ搭載ス

自馬公至上海(三都澳、エリオト島側、吳淞及び泊)
全航程 六七七哩
航老時間 六九時間七

内自馬公至三都澳
航程 二五九哩四
航老時間 廿八時間七

自三都澳至上海
航程 四一八哩
航老時間 四一時間

「バスト」流行熾甚爲ノ香港寄港ヲ取止メ更ニ宮古島及那覇ヲ至テ上海

ニ向フコト豫定變更セリ而シテ昔時若シキ低気壓ノ近海ニ出現セシモノナリシニ

馬公出港後北々東乃至北々強風アリテ其力六乃至七ニ達セシ以テ航行中

再ビ予定ヲ變更シ三都澳ニ依泊シ上海ニ向フコトセリ依リ台湾白砂岬燈

台ニ繼位ヲ確メタル後三都澳ニ向ヘリ

三都澳ヨリ上海ニ向フニ普通ノ航路ヲ取リ「スチーブ」島航門及「ボナ」海

峽ヲ通過セリ

五月七日(金曜日) 气温 最高 七十七度 最低 七十三度 天候 曇 午後荒模様ナル气温大ニ下ル

風向北々東力三乃至五、夕頃ヲ北、力五乃至七

気壓數末元九二一・元八五向テ規則正ニ昇降セシカ本自ニ何等ノ變化セ

午前六時五分坂鋪兩艦編隊出港、原速力十哩トス

澎湖列島ノ西岸ヲ北上ニ午前九時廿三分目斗嶼燈台ヲ南東ノ西東十三哩

ニ見テ北五十三度東ニ度針ヲリ此時薄霧アリモ燈台ヲ見ズ風力約五、

達ニ艦動揺シテ少シク航程ヲ減シラレ毎時八哩半ヲ出テ初メ台灣白沙

岬燈台ニ向ケ度針ニ居タルモ往航ノ際リシ海流此風ノ為メ其力ヲ弱クシ

或ハ左燈台ノ光達圈以南ニ出ん「ア」ラシク北ニ午後七時推測艦位置白沙

岬燈台ノ南五十五度西三哩半ノ位置ヲ北東微北ニ度針ニ海岸線

ト並行ノ針路ヲトシ午後九時十分左燈台ヲ右舷艦首約三點ニ

認メ左十時二十五分右舷正横七哩石ニテ北ニ西ニ度針東引燈

台ノ東方ニ度針ヲ白砂岬ニ来ニ追ニ南ニ東ノ西東ニ流サル「ア」五哩ナリ

ニ午後九時原メ風向北轉シ其力益ニ強リ六乃至七トナリ徒ニ長壽

末ニ艦ノ縦動少シク大トナリ

五月十九日(土曜日) 气温 最高 七十四度 最低 五十九度 天候 曇少ク荒模様、

風向北より北東カ六乃至一

氣壓正午頃より下降シ夕頃より二九七九ニ停止ス 正午より少シク風力減ジ
六より五トナル 氣温より二ニ度高キルシ海水温度午前二時ニ度氣温より低キル
午前四時東ノ燈台ヲ認め今四時三十分推測位置ノ北西ニ北六哩半
ニアリシヲ測知シ北西ニ西ニ度針ス此時より午後六時三十分迄ニ風下
ニ壓流セシメ約二哩、即チ左燈台ノ南より十三度西六哩ノニニリテ西
ノ北ニ北ニ度針此時より毎時約一哩ノニ速力ヲ南より西ニ壓流セシ
メ漲潮流ノ爲メニカ八時三十分北より五度西ニ度針スノニカ列島ノ
北方此航路附近處々漁網ヲ支持ス大柱ノ如キモノ簇立ス附近ノ
航海ニ注意ヲ要ス

午前九時十五分針路不定澳口向左九時三十分原速力十二哩トシ
左九時五十分(三都澳高潮時后約一時廿分)約一哩ノニ逆潮ヲカカス
角下將葉礁間ノ水道ヲ通過シ午前十時四十分官井洋ニ校錨ス

水艦々位(青山島東端 低島限)

北東々北北 南八十九度東

水深十三尋 底質 白泥

三都島、電信用道

三都島南端、税関棧橋西側より三都洋ヲ横断シテ對岸ノ「エーヴォクス」
角ノ間ニ一條ノ水底電線ヲ棧橋北方約一五鏈ニ清國郵便電信局
アリ該水底電信ヲ經由シ陸上福州郵便局ト連接ス而シテ此線經由ノ
電報ノ特、電報料二十銭ヲ加徴セシ、該電線ノ陸揚點ニ白塗土藏
ノ如キ建物アリ

五月廿一日(月曜日)

气温 最高 七十八度 最低 六十八度

天候 朝来濃霧屢々襲来午前九時

過稍薄キシモ午後三時頃又襲来夜ノシテ薄キ細雨伴フ風 午後北々北東
カ一乃至四

气压 入港後尚少シク下降ス本日二九七三—二九六二ノ間アリ

午前六時抜錨翌日夕刻揚子江口ニ達ス豫定ナリシモ濃霧ノ為ニ出港

ニ得ズ午前九時五分頃漸次薄キ午前十時早五分抜錨西艦編

隊出港ス、出港時刻遅延ノ為ノ原速力十一哩トス十一時五分

一頁

(三都洋高潮後約一時間半) 澳口ヲ出テ入流ノ際見得カリシ荷葉礁頂
 水面ニ露出セル見タリ 澳口ヲ出ル迄ハ余ヲ潮流ヲ感セザリシガ出テテ少
 シク追潮アリ 大西洋島、鉅山島ヲ約ニ理馬ニテ航行、午後一時鉅山島
 頂ヲ北西ノ北ニ望ミ見テ東北ニ西東ニ爰針下、午後三時霧ヲ来テ
 三時廿五分稍薄クシテ四時三十分「ストロリス」島ヲ認メテ午後霧ノ
 爲メ再び島影ヲ認メテ濃霧ノ内ニ航行ス午後六時三十分推測艦位
 (北緯廿七度五分三十分 東至豆度五分廿秒) 三十分北三十七度東ニ爰針ス午後七時四十五分細雨
 薄霧ニ伴ヒテ之ヲ漸次風力加リ十一時頃四乃至五トナル
 五月廿二日(火曜日) 气温 最高 六十八度 最低 六十三度 天候曇り雨、午後雨止
 風候、北風多ク北東ヲ北東ノ風時々吹ク風力ハ漸次衰、正午三トナル、正午頃
 風向東北東、力三、日没前ヨリ二トナル
 気壓ハ漸次昇リテ八九・八九ニ至ル
 午前一時頃一流船ト行合ヒ外何物ヲモ見ズ午前五時推測艦位

0300

北緯廿八度三十七分
 東經百廿二度十七分
 三ツリ展望約五哩及ブナ致テ黒山群島ニリ艦位
 ナ碇ノト欵シ全時北廿八度東ニ變針セシモ午前七時漲潮未幾八
 時過薄キモモ遂ニ之ヲ認ムルヲ得ズ只鑑測ニリ予定航路上ニルヤ
 知得タルニ午前十時頃汽船一隻我右舷ヲ反航スルモ之會シ普
 通航路外ニ逸シ居ルルヤ尚碇ヲ得ルヲ以テ東汀島然ラズバ澳
 夫群島ニリ艦位ヲ碇ノト欵シ其針路ヲ續航セリ
 午後一時五分ヲ以テオシ島ノ西端ヲ北ニ向東ニ認メ續テ他ノ諸隣島
 ナ確認シ得タルヲ以テ午後一時三十七分ヲ以テオシ島ノ南ニ西ニ西五哩ニ
 ノ位置ニ北西ニ變針續テ「スケー」島航門高ヒ午後二時十五分ニテ
 通過ス此頃霧一層薄キモ展望十哩ニ達セリ當航門ヲ以テ北ノ海水
 濤濁揚子江内ノ如シ「エカ」島ナ一哩半離ニテ航行中午後六時
 「ホナム」海峡ニリ當時風力約ニナリシモ東方ヨリ来ル長濤大ニテ
 以テ午後七時五分「エリオ」島側ニ返泊ス

艦使

千島嶼頂(四七一呎)

北東 南四十七度東

水深六尋、底質泥

五月廿三日(水曜日) 气温

最高七十二度 最低六十三度

天候曇(午前八時より正午迄晴)

風向北東、力三

气压 漸次昇りて三〇・〇五ニ至ル

午前一時分抜錨兩艦編隊航行原速力十一哩トナル、在七時三十分好路浮

標ヲ西ノ北約一哩半ニ認め是ヲ先ニ都瀾ヨリ上海領事館先案内者送リ

置ク様依頼シ置キシモ波浪稍高ク加ルニ前果ク長濤尚其余勢ヲ残ス

為メトシ水先船其附近ニ見當テ依リ午前一時好路浮標ヲ右舷ニ見テ東

沙向ヲ北東ノ風強ク且ク漲潮ノ為メニ風下ニ流カニ甚ク東沙燈船

ノ下方約二三哩ノ處ヨリ白色航線水先旗ヲ懸テ来リ午前八時早五分水

先案内者兼艦就ノ間々江口外波浪高キ時ハ水先船ハ此附近ニ在泊ス

テ常トス他ニ二三隻水先帆船アリ

東沙燈船(此燈船ハ南西方約一哩以上ノ處ニ在リテ残クナリ故ニ燈船ニ

0302

近航行ニ要ス水先人語リ(東沙ノカス、ブイ)此ブイハ左舷ニ見テ逆
 航スル水路誌ニ記シ水先人ノ言ニ依テ近時「シットト、カウロド」下端漸
 次下流ニ擴延シテ下流此「ブイ」ノ北方航路ヲ取ラト下航ハ他ノ水先
 人ニ此事、付キ聞キ合ヒテモ語ルヤ好ヤル如クナリカ一般水先人ハ此「ブイ」
 ノ南方ヲ取ルモ如ク見度ナリ)ナ右舷九段燈船ヲ左舷ニ他ノカス、ブイ
 或同ヤ右舷ニ見何レモ之ニ近ク航行約二哩ノ頃潮ヲ溯航ス午前九時
 廿分英駆逐艦ニ隻十時廿七分英艦「ギンガアルフレッド」ヲ止テ航ス會テ
 潮待及抜疾医ノ乗艦、馬ノ午前十時廿三分吳淞江外依嶼須磨亦隨傍
 艦仕人 吳淞燈台 南平度西 水深十尋 底質泥
 左泊外國軍艦「フールスト、ヒスター」(獨)、「オリストター」(英)、
 「キヤドマス」(英)

午後一時十八分拔錨上海向清國々旗、對シ禮砲施行吳淞砲台ヨリ
 答砲アリ獨艦「ヒヤカ」見、清艦元江及航ス午後一時半券内門外ヲ

通過ス(高潮時午後零時五分本艦吃水前部十六呎一吋
後部十九呎四吋)

微少、順潮、湖航、就時、分、上海、錨地、下限、界、下流、ニ、リ、水、先、人、請

亦、ニ、リ、ノ、旗、ヲ、掲、揚、シ、(錨地、指定、ナ、シ、モ、ノ、ナ、リ、ト、シ、テ) 港、界、附、近、ヲ、除

行、ハ、港、長、代、理、者、末、リ、錨地、ヲ、指、定、ス、午、後、三、時、廿、分、庫、艦、錨地、ニ、投

錨、ス、須、磨、下、流、ニ、投、錨

本艦、々、位、(清國海関信号打北、才、西、上、西
西、二、度、南) 水深、五、尋、半、底、質、泥

左、泊、艦、艇、(庫、艦、錨地) (ア、ス、ト、ラ、(英)、(ロ、シ、ニ、ナ、キ、(米))

「カイカ」(獨)、「ジャペリン」、「ゴシテ」、「ポール」(佛、駆、逐、艦)

(下流) 宇治、「マシエ」(露)、「ユカノ」(米) 海、折、(清)

(上流) 清、艦、海、琛、南、環、登、瀛、州、保、民、飛、鷹、南、滿、

自、五、月、廿、四、日、至、五、月、廿、七、日、上、海、碇、泊、最高、七、十、九、度
最低、六、十、三、度 天、候、概、シ、テ、早、穩、

左、泊、中、艦、艇、出、入、左、如、シ

須、磨、廿、四、日、庫、艦、錨地、錨、場、變、更

佛駆逐艦「サーゲル」フワロニスク (廿四日入港軍艦錨地)

獨駆逐艦 S90号 (廿五日)

亞爾然丁「プレジデント」サーニエン (下流入港)

自上海至膠州灣 航程 五八六哩 航費時間 四一時間 四

五月廿八(月曜日) 气温 最高 七十九度 最低 六十四度 天候曇 午後晴 風向北 北東 北東

气压 廿六日 呂宋ノ南東方ニリシ低气压ハ北西ニ進シ廿七日 呂宋

ノ東方ニリテ北方ノ進路ヲ取リト尚又上海ノ天候ハ尚廿四時

間好天気ヲ持續スル豫報アリ本日ノ气压ハ前兩日比シテ

稍高ク二九・七五より二九・八六ノ間ニリシ

出港前清艦策庵、獨駆逐艦 S90号 下航ニ英艦「カドワ」入港アリ

午後貳時廿分須磨解纜セリ、先索内者米艦午後貳時廿五分本

艦拔錨出港原速回轉九十トス午後四時廿分吳淞江ヲ出テ揚子江

ニ入ル、獨艦「フエルト」ヒスマーク及獨駆逐艦 S90号、

0305

壞艦「フアム」に泊セシク在泊セシク認め内門州通過シタルハ午

後四時五分(當日午後高潮時三時二十九分本艦隊ハ前部九時

午後七時五分好路浮標ノ南方ニ至リ水先人ヲ節ス

午後七時五十分前進兩艦編隊原速力十哩ヲ航行ス午後十時七分

「フアム」列名中、最南若リ東ニ南五哩處ヲ正北ニ定針

五月廿九日(火曜日) 气温最高^{二十五度}最低^{十五度} 天候午前概シ曇、薄モヤアリ夕刻ハ快晴

風候 北西ヨリ南西力一乃至貳、風リシカ午後八時過リ東ニ変リ力同心

气压 前日比シ少シク下降シタルヲ認め此ハ不規則ナラス前夜「フアム」列

名附近ニ定針セシ以来三四時間ハ艦ノ大ニ陸方流タルヲ認めタリ

シガ午前七時五十分砂尾山燈光ヲ見失ヒ朝来天曇リテ天

測ノ機會ヲ得カリシカ正午艦位ヲ推測位置(前日午後七時七分以

後ハ日誌推算セシモノ)ヲ北緯ニ編スルハ十七哩ヲ測知ヤリ午後四時推

測位置北緯廿六度廿分東經百廿二度廿分ヲ北三十度西ニ定針

0306

五月廿日(木曜日) 气温、最高^{七十七度}、最低^{六十二度}、天候晴、風向^{東北来り東南東}カ一^{カ一}風^ニ風^リ

气压、異状ナズ

午前一時五十分塔連島燈台北^北西^西約五哩

ニ^ニ知^知り午前三時十分速カ^カ後^後ノ^ノ航^航行^行三時五十分燈台

ノ^ノ南^南七十度東九理五^五見^見テ^テ北^北六十九度西^西度^度針^針青^青島^島錨^錨地^地向^向テ

外^外港^港ニ^ニ着^着シ^シケ^ケレ^レバ^バイ^イロ^ロツ^ツ止^止未^未艦^艦セ^セシ^シガ^ガ之^之用^用ヒ^ヒテ^テ其^其言^言ヲ^ヲ所^所ニ^ニ見^見テ^テ錨^錨地^地ニ^ニ任

意^意テ^テト^ト午前七時十分外港ニ^ニ投^投錨^錨ト

艦^艦位^位 (ト^トダイ^{ダイ}ア^アテ^テリ^リキ^キヒ^ヒル^ルト^トアル^{アル}コ^コト^ト燈^燈台^台ト^ト一^一線^線 水深^{水深}十^十尋^尋底^底質^質泥^泥)
北^北内^内山^山燈^燈台^台 北^北八^八十九^九度^度西^西

獨^獨艦^艦 (ト^トジャ^{ジャ}カ^カアル^{アル} 艦^艦枕^枕射^射撃^撃ノ^ノ為^為メ^メ出^出港^港)

左^左泊^泊軍^軍艦^艦 (ト^トハ^ハニ^ニサ^サレ^レ (内^内港^港))

獨^獨國^國々^々旗^旗對^對シ^シ皇^皇禮^禮砲^砲施^施行^行禮^禮砲^砲々^々台^台ヲ^ヲ若^若砲^砲ヲ^ヲ

午^午前^前ト^トフ^フア^アニ^ニル^ルト^トヒ^ヒス^スマ^マー^ーク^ク及^及驅^驅逐^逐艦^艦590号^号入^入港^港(内^内港^港) 午^午後

ト^トジャ^{ジャ}カ^カアル^{アル}入^入港^港(内^内港^港)

自膠州灣至威海衛

航程 一八五哩三
航去時間 二〇時間四

五月廿一日(木曜日)

气温 最高七十五度 最低六十四度 天候晴午後少曇、昏薄霧了、辰望

不元分 風向 南々東 カ 或乃至参

气压 少シク高シ 二九・八ニ漸次昇リテ三〇・〇四ト成 低气压ハ漸次北進

シテ台湾東部ニ来リ北東ニ進ムトノ豫報アリ

午後零時三十分抜錨兩艦編隊出港原速力十哩トス出港後内筒砲對

抗射撃施行、午後四時三十分腰島岬ノ南々東ニ以テ北六十度度東、

定針夕刺千里島ヲ認ム以來又陸地ヲ認ム

六月一日(金曜日) 气温 最高六十七度 最低五十七度 天候曇、午後晴、風向南西力、或

气压 少シク高ナリ 三〇・〇三ト三〇・〇七ト間ニナリ

午前零時七十分南東高角燈台ヲ認ム艦ノ北東ニ流ルニテ各時平

均約一哩ナリヲ認ム之ヲ距岸約三哩ニ航行午前五時廿十分小成島頂

ヲ南西三哩ヲ見テ西ニ北ニ定針定針後約、或時間ハ高潮時後

0308

壹、貳時間ありしモ海圖ニ正ヨリ少シク異ナリ東南東ニ流セルヲ毎時約一哩ナシ、午前八時半西口ニ向ヒ八時五十分威海衛ニ投錨ス、投

錨前何人々来ラズ依テ任意投錨セリ

艦位 (竹島南燈台 南八十五度西 黄島北燈台 西端北々南)

水深六尋 底質泥

自威海衛至芝罘

航程 三九哩 四時間六分

威海衛ヲ大連ニ至ル予定ヲ変更シ芝罘旅順口ニ寄港スルトセリ

六月貳日 (土曜日) 气温 最高 七十九度 最低 六十二度 天候 概テ曇 風向 南西ヲ南々西 力一乃至三

午前九時十分投錨兩艦編隊出港原速力十哩トス雙岩、柱石ヲ尤

艦見テ午後二時港口ニ達シ清國國旗ニ對シ皇禮礼ヲ奏ス在泊清艦

海客答礼ス左、貳時十分投錨

艦位 (四頭丘東端 南四十五度東 南五十五度西) 水深五尋 底質泥

在泊軍艦、清艦海客、米艦 (コンソール)

夕刻清艦海客入洗ス

自芝罘至旅順港

航程 八十三哩八
航走時間 一〇時間三

六月三日(日曜日) 气温 最高 七十九度 最低 七十二度 天候 曇、霧、風向 南西、東南東

午前八時發、出港九時、領磨速力、試驗、行

ノ為、列、解、北、南、東、定、針、帽、島、向、帽、島、頂、東、二、理、六、見、

正西、度、針、航、外、達、之、獨、道、守、船、道、守、セ、テ、入、港、午、後、六、時、廿、分、西、港

壹、番、浮、標、較、不、留、不、在、泊、艦、領、磨、島、海、赤、城

六月四日 旅順港在泊 气温 最高 八十八度 最低 七十度 天候 概、晴

五日 炭水補充

自旅順港至大連灣

航程 三十一哩
航走時間 三時間八

六月六日(水曜日) 气温 最高 七十二度 最低 六十二度 天候 晴、風、向、南、西、南、東、力、一、三

午前七時三十分發、出港、原、速、力、十、理、三、鐘、隊、航、行、不、沿、岸、航

之、南、口、角、西、口、角、約、一、理、當、シ、テ、進、シ、午、後、三、時、廿、五、分、投、錨

自大連至仁川

航程 二六八哩
航走時間 三十一時間

六月七日(木曜日) 气温 最高 七十二度 最低 六十度 天候 快晴、風候 北西、漸次古靴、東、北

午前九時早分、坂、錨、兩艦、編隊、出流、原速、十哩、ト、各艦、速力、試験

施行、爲、九時五十分、解列、午前十時早二分、南三山島燈台、南

五十二度、西一哩、五、一、度、南五十八度、東、定針、本艦、正午、三、回轉、六

十、午後八時、三、回轉、六十五、對、石炭消費、試験、行、各八時

間宛施行

六月八日(金曜日) 气温 最高 七十五度 最低 六十度 天候 晴、風候 東、東、東南、東、北、風、力、一、乃至、二

午前三時、早分、大青島頂、北七十、或、度、東、十、哩、見、南、四十四度、東、度

針、六、午前四時、六十五、回轉、對、試驗、終、四時半、午後三

時、迫、八十回轉、對、試驗、施行、

漢口近海、潮流、強、今、面、航行、中、次、一、實驗、針、全、針、塔、航行、中

午前四時、五時半、至、潮流、方向、北西、力、每、片、一、哩

左 五時半、至、七時、至、北、右、東、一、哩

午前七時より十時に至ル

潮流方向 西より北方 毎時一哩六

午前十時北緯三十七度一分或十秒、東経百廿五度或十秒より南

東より東に東に霞針航行中

午前十時より正午に至ル

潮流方向 南より西 力 毎時一哩六

正午北緯三十七度一分十秒、東経百廿五度四十分より南七十五度東に霞

針航行中

正午より午後一時迄

潮流方向 東微南に南、力 毎時一哩八

六月八日、高潮時

系照

彌物浦 六時一四分

(午前)

六時三四分

(午後)

徳積島 五、五〇

六、一〇

巡威島 六、四一

七、一

大青島 七、四

七、二四

右依り見は大体海圖記載、潮流は合キ見ル

0312

之ヲ蔚島ノ南方出テ東水道ニ入リ普通航路ヲ経、約三哩ノ順潮ヲ入港午後四時早分濟物浦錨地ニ投錨ス

六月九日 仁川碇泊 気温 最高 七十四度 天候 九日曇
最低 六十二度 十日出候ノ時ニ大霧來ル

自仁川至鎮海灣 航程 三四〇哩
航去時間 三七時間ト三

航路東水道ヲ筈島ノ西方ニ出テ南下シ翌拂院七倉島附近ニ至リ順潮ヲ長竹水道ニ横省水道ヲ通過セリ

六月十日(月曜日) 気温 最高 天候 曇、朝來時ニ濃霧ヲ夕刻ニ薄
最低

ヲヤ雨トシ風向不定力一、午後九時廿分頃ヲ偏東向迄ニカ三乃至六

午前九時早分錨兩艦編隊順潮ヲ出港、原速力十哩トナシ、十時

五十分北長子嶼ノ西方ニ濃霧ニ會シ速力ヲ緩メシニ投錨前霧去リ

ニ以テ續航行、正午頃身島ノ東北方ニ再ニ濃霧ノ襲來トシ、正、投錨

セントレ霧稍薄キレテ以テ續航、午後零時早分長安嶼北西ノ北一涯

四ニテ南西ニ定針、零時早分濃霧來リシニ航行ヲ繼續シ午後一

時々回轉七十三対スル速力、試験施行順潮ノ見込午後一時三十分南
 南西、度針長安堆西南方ニル島嶼ニリ、艦位ヲ確知セトセシモ何物
 ナモ見ズレテ通過、左一時五分、概カ、南西風起リ附近、霧シク
 晴レ、ジヨークム、西側半島頂ニリ、艦位ヲ確知セリ得テ、午後
 貳時十分、筑島、北五度東十一度、七リ、再ハ濃霧ニセリ、三時八分
 南西、度針、三時五分、偏北風来リ、霧薄ニテ附近、島嶼、ヲ艦位
 ナ確メ、午後二時十分、此時迄、艦、南西、流レ、一四度ナリ、知レリ
 午後四時、南十七度半、西、度針、左四時五分、方、矢島、北、西八度、
 見テ南微西、度針、四時五分、霧晴レ、雨ナリ、雷鳴、電光、烈シク風
 向不定、五時、須磨、砦、消費、試験、島、列、ヲ、離レ、午後九時、七十回轉
 ノ、試験、終リ、七十回轉、對テ、消費、試験、ヲ、始メ、十一時、頃、雨、止シ
 ナレリ、晴ル

六月十日(火曜日) 气温 最高 七十三度 最低 五十三度 天候 午前曇方々霧、十時過リ快晴

0314

風向 南西より南東、力一乃至貳

午前八時五分、左舷燈首二点半、七条島燈光ヲ認め、全産時

七条島燈台、北廿二度西廿五度半より南西より西に流レ、一八度半

落潮流、高メナラシカ、全時南より東に東に、産時七分濃霧

来り、約五分時、後晴ル、七条島に近ヅルに、徒ヒ漸時東北方に流レル漲

潮流ノ島メナルシ、全時五分七条島ヲ左舷見テ進、午後五時

石炭消費、試験終リ、原速力十度トシ、牛耳群島、加徳島ヲ右舷見

テ長竹水道ヲ過シ、午前八時五分葛城島、密谷島トノ中間ニ差リ、

トナリ、濃霧来リシカ、八時廿分兄ヶ島附近ニ霧齊シ、横着水道通

過、後快晴トシ、掛院、伏水道ニ入リシヨリ、正午迄、毎時平均一涯九ノ

順潮、来リ、午後湯根波、鶴島、國島、九乙非島等ヲ右舷見

毎時約三ノ理ノ順潮、午後十時五分、單獨入洗、赤川水道ニ接

鋪ス

鎮海灣内、艦砲射撃、水雷艇射撃（十三日、十四日間施行）

十三日 航程 六哩半
航去時間 九時四九
航程 五二哩半
航去時間 九時四二

十五日 航程 二九哩半
航去時間 九時四三
航程 三八哩七
航去時間 八時四四

六月十日（水曜日） 気温 最高 七十九度 最低 六十五度 天候 晴、風向 午前不定、午後南西、力二乃至三

午前九時十五分須磨入港、午前九時廿分本艦拔錨小笠原島西方

二、錨地ノ変更、全十時十三分拔錨 艦砲射撃施行

六月十日（木曜日） 気温 最高 七十三度 最低 六十七度 天候 晴、風向 南東、力一乃至三

午前八時拔錨、速力八哩吹島附近、艦砲射撃施行後、午後五時

廿分於義持島西方、碇泊

六月十日（金曜日） 気温 最高 七十一度 最低 六十五度 天候 曇、風向 北東、力一乃至三

午前八時廿分拔錨、錨地附近、水雷艇射撃施行、午後五時附近、碇泊

六月十日（土曜日） 気温 最高 七十度 最低 六十五度 天候 曇、午前十時頃、降雨

風向 北東、力一乃至三

午前六時五分抜錨小浦発射施行終る午後零時四十分馬山浦に向
 左一時九分碇川水道返泊左二時五分抜錨馬山浦枝
 錨、須磨在泊

白馬山浦至竹敷

航程
 航程時間

六時五
 六時八

六月十七日(日曜日)

气温
 最高
 最低

七十一度
 七十度

天候曇
 風向

午後東
 力一乃至四

午前十一時五分抜錨編隊出港原速十運十二午後五時四十分入都賀

院部司令官對禮砲施行陸上り碇下り午後五時五分入番落

標、繫留

六月十八日(月曜日)

航程
 航程時間

三九。運
 四時八

气温
 最高
 最低

七十一度
 六十九度

天候曇
 炭水補充

白竹敷舞鶴に至る

日本海、機材小浦浮流舟晝間之航行且竹敷出港後四季演習施行

島々款及心隠岐島前夜泊り

六月十九日(火曜日)

气温
 最高
 最低

七十二度
 六十七度

天候午前晴午後曇
 風向

北。東
 力二乃至四

午前三時汽笛至急点火兩艦聯合四季演習開始、六時九分解纜兩艦
 編隊出港原速回轉百、本艦午前七時三十分回轉百對石炭費消試
 驗施行對西岸北上約一哩、潮流追入、九時五分三島燈台ヲ
 南二哩半見テ東微南為南、度針約三哩、順潮航行午後三時
 頃長門北岸、向ヲ進、午後三時、試驗終了原速力十哩トス之ヲ内
 筒砲對抗射撃、機関故障其他諸操練ヲ施行シテ入港午後七時四
 十分、飯泊、午後九時四十分演習中止。

六月廿日(水曜日) 气温最高^{七十二度}最低^{六十七度} 天候曇 風向北北東、力一至貳

午前六時演習再興、六時八分錨編隊出港原速回轉九十分、肥島
 横島ヲ左舷見テ航行、午前七時横島北東端ヲ西北西^二北^六鍊、
 見テ北東、度針、午前七時三十分本艦回轉九十、對石炭費消試
 驗ヲ始ム午後三時終リ原速力十哩トス午後三時三十分汽機故障
 操練施行速力ヲ減ガ午後四時三十分速力十哩ニ復ス午前九時ヲ

此時迄毎時零理七ノ順潮、下リテ測知、赤灘瀬ノ附近ニ諸

演習施行午後八時三十分浦ノ御投錨午後十時早分演習中止

六月廿日(木曜日) 气温 最高七十三度 最低六十八度 天候曇、風向 北々東、北東 九三至五ノ風、午後四時迄

弓南々東、力二八至三

午前六時廿分演習再興、午前八時十分投錨編隊出港原速回轉九

十、九時七分本路々崎、東南東、或理三三南七十八度東、定針

午後三時五十分演習終結毎時零理七ノ順潮ヲ経テ崎附近、

達シ午後八時十分岸三區、投泊ス

六月廿一日(曜日) 气温 最高七十度 最低六十八度 天候曇、降雨

午前七時四十分投錨岸、或理、入心鎮守府司令長官、対シ禮砲施行、

吾妻ヲ吞ビ下リ八時半分八番浮標、繫留ス

自六月廿日(日) 舞鶴碇泊 气温 最高八十二度 最低六十八度 天候 概シ曇天、四時、山原、雨 概シ曇天、四時、山原、雨

左泊中、機関解放結合、高力運轉準備、練習昇放等施行、

炭水補充下

自舞鶴至佐渡相川港

航程 航時間 二一九哩式 一四時間六分

七月七日(土曜) 气温 最高 七十四度 最低 六十八度 天候 曇、風候 北東より北東ノ風あり 力 甚乃生式

午前四時五分解纜西艦編隊航行入午前四時三十分灣口出テ解列

各艦高速力試験施行、本艦入午前五時開始左如く施行す

五時三十分迄三五、六時三十分迄自然通風全力

十時三十分午後五時迄三五

冠島ヲ左舷ニ見テ能登ニ向ヒ約二哩南シテ半島ヲ圍リ相川湾ニ直

進シ午後六時四十分入港投錨セリ

艦位 横島 北七度東 水深七尋、底質 岩ノ上ニ少シク砂石多ク如クナリ

午後七時四十分須磨入港投錨

自相川至新潟

航程 航時間 五六哩九 五時間八分

七月八日(日曜) 气温 最高 七十八度 最低 六十八度 天候 晴、風 昼間 北東より北東ノ風あり 力 一乃至二 夜間 南西より南東ノ風あり 力 一乃至二

0320

午後零時五十分投錨編隊航行原速力十理上ニ南下シ佐渡島ヲ
左舷約一哩半見テ進ミ後新潟直航午後六時四十分投錨

自新潟至小樽(夜間航路ヲ行ハル島々大濙々後ニ能代錨地及久遠(渡後泊)

全航程 三五〇哩
左舷寄時間 三六時間 四

七月十日(火曜) 气温 最高七十九度 最低五十七度 天候晴 風向 東北東ヨリ南東、
力ニ乃至四、気壓少シク下ル

午前七時十分投錨原速力十二哩ニ編隊航行粟生島飛島ヲ右舷ニ見
テ進ミ每時約一哩、順潮(方向北々東)ニ能代錨地ニ至リ午後七時五十分投錨

七月十日(水曜) 气温 最高七十度 最低五十九度 気壓降下ス天候曇、霧ヲ展望元分ナク

風向南東ヨリ東北東、力三乃至五、夜ニ入り北微西、力貳

午前六時十分投錨原速力十哩ニ編隊航行艦作燈ヲ右舷貳哩

ニ見テ奥尻島泊地ニ向針七シカ偏東風強キ島ノ小島ヲ右舷ニ見テ後

志、久遠灣ニ向テ變針順潮ヲ午後六時五十分投錨、後泊地ニ

長崎進入

艦位 (ポンモリ岬) 南東 水深 十尋 底質 砂

七月十二日 (木曜日) 气温 最高 七十度 最低 六十度 气压 上昇

天候 朝来 雨 止り 出港 前 雨 止り 少く 霧 止り 風候 偏東 風 力 一乃至 二

午前 六時 五分 抜錨 原速 十 哩 編隊 航行 普通 航路 航行 午後

五時 十分 小樽 湾 外 艦隊 霧 中 航行 試み 午後 七時 十分 錨 投

七月十日 小樽 碇泊 气温 最高 七十七度 最低 六十五度

天候 概し 晴 然し 北 東 南 東 風 力 三乃至 五 風 下 港内 波浪 高

ク 船 身 陸 上 ノ 交 通 困 難 ナリ 炭 水 補 充

自小樽至大湊 (入港前陸奥海灣 自表修正測定 並 潜水測定 施行)

全航程 二十四 哩 全航時間 五時 四十分

七月十日 (日曜日) 气温 最高 七十五度 最低 六十七度 天候 半晴 少く 霧 あり 底質 泥 分 多

風 北 西 乃至 西南 西 力 壹 乃至 貳

午前 五時 十分 抜錨 原速 力 十二 哩 編隊 航行 普通 航路 航行 津 輕

海峽入り東南東ノ針路ヲ海峽ヲ横断ス海峽入ル前リ釣敷時間
釣敷運宛海流ニ追ヒ(海峽ニハ流向東ニ北)午後九時陸奥海灣

入口ニ達シ午後十時十八分大湊港外ニ碇泊ス

七月十五日(月曜日) 气温 最高 七十八度
最低 六十七度

天候曇、霽アリシ漸次消散ス、風向北ヲ北東、力一

午前六時十分本艦碇泊自善修正續ニ測定終リ隋力測定ヲ施行シ

大湊入港要港部司令官、對シ禮砲施行陸上ヨリ若砲アリ午後一時三

十分碇泊須磨左泊セリ

自大湊至函館(大湊出港自雷奈射施行シ青森碇泊上函館ニ向テ)

左航程 産山産 産山産 産山産
航老時間 壹八時間 九

七月十七日(大曜日) 气温 最高 八十二度 天候 午前半晴、風向 午前東ヲ北東、力一乃至二
最低 六十八度 午後晴、風向 午後不定、力一乃至一

本艦午前六時七分碇泊内ニ雷奈射施行終リ原速力十二哩ニ

青森ニ向テ、須磨途中ニ末會午後七時十分碇泊

七月十八日

(水曜)

气温最高八十一度
最低七十二度

天候半晴、風向

北西より西北西
力一乃至三

午前九時半、分板錨編隊出港、原速力十運、北一度、更定針し

明神崎燈台ヲ大船正横、二理三見、航行午後一時十五分龍飛崎

ト大同崎ト一線上、過カルヤ著ク海流ヲ感じ、狐越岬ト汐首岬ト

一線上、至ル迄北東、流サレテ三理(一時間)了、此時海峽ニ大風(力

二乃至三)了、午後三時廿分函館入港、投錨、

自七月十九日

至七月廿九日、函館碇泊

气温最高八十一度
最低五十三度

天候曇天多ク薄霽時々来ル然レモ平穩

左港中

候補生終末試験了、明石須磨聯合装填砲、信号術、

端舟競走、懸賞競技施行、炭水補充

廿日 英艦「キングスフレット」、「ダイヤル」、「ケント」、「モリス」入港、皇禮砲

交換終、英長官ニ対シ禮砲施行着砲了

錨地変換

航程 七〇哩
碇泊時間 七

七月三十日(月曜日)

气温

最高

八十四度
最低 七十二度

明石須磨聯合内筒砲懸賞競技施行、高ノ港界附近に船地

ヲ変換ス午前八時十分抜錨八時四十分泊、競技終ラ午後〇時

五十分抜錨全一時早五十分元、船地、帰着

本日、外アヤシム、モニマス出港

自函館至釜石(久慈湾仮泊)

航程

一七〇哩
一六時間七

七月廿日(火曜日) 气温 最高 七十二度
最低 十九度

航程 一七〇哩
一六時間七
来ラ東南東
風力

午前六時三分抜錨原速力十哩ヲ編隊航行、全六時四十分立待岬ナ

北東一理ハ見テ南東微東左東ニ定針海峡ヲ通過ス本日風弱ナ

レ比前日ノ風、高ノ長濤ナリ七時ノ約一時間半東左南、流ハ力ニ理ハ

海流ナリ中檢ナリ尚追潮ヲ進シ十時十分及矢崎ナリ西ニ理ハ高ナリ航

行南定針午後一時南十三度東ニ變針久慈湾、四午後三時ニ

至北ノ檢測ヲ各時南右東ニ一理五流ナリ居ルル午後五時十分

仮泊地投錨、午前十時音羽會、山田司令官對し禮砲施行答砲下り

八月一日(水曜日) 气温 最高七十七度 最低二十九度 天候 霧深し午後チチ薄シ風不定力三

午前五時五分投錨原速力十漣ヲ編隊航行沿岸ヲ南下レ午

後零時五分屋石洗一投錨下

本艦之位(横山頭) 南三度東 水深十尋半底質細黑色、泥

自奎乃至横復賀 航程 三二八八漣 航去時間 二八時間九

八月貳日(木曜日) 气温 最高七十九度 最低六十九度 天候 霧深し午後散じ半晴、

風向午前北ヲ北東ノ風下レ正午頃漸次右轉シ南ト力一乃至二

午前五時五分投錨出洗原速力十二漣ヲ編隊霧中ヲ航行ス

六時三十分首矯シ北西ト北一漣ヲ見テ南廿三度西ニ變針爾後

濃霧ヲ陸ヲ見ズ十一時頃霧薄シ陸ヲ認メ艦ノ南々西ニ流サル、

毎時一漣一ホヲ測知セリ金華山ヲ過ル頃風向漸次右轉レ午後

三時頃南トチ气温漸次昇ルヲ見テ正午濃霧又来リレモ二時半

過金ヶ濱八十二時頃、塩屋崎、遠見迄艦ノ南に西に流せし
毎時一哩一ナリシヲ測知キ午後五時十三分塩屋崎燈台ヲ右舷正横
六哩ニ見テ南に西に度針午後十時七分塩屋崎ヲ西南西ニ見ル頃迄ハ
艦ノ南に流ルナリ毎時約一哩九分ナリ尤も吹崎ヲ約七哩離レテ航
行セリ

八月三日(金曜日)

天候午前概シ曇リ風向南方一

午前零時零分尤も吹崎ノ南三十度東約七哩ナリ南西に南に航
行午時四時頃迄艦ノ北東に東に流ルニシテ毎時約一哩半
ナリシヲ測知キ尤も房州ヲ周リ午前九時五十分横須賀入港
九番浮標ニ繫留スル迄航ヲ終ル

了

0327

